

住友化学 i-農力だより

<http://www.i-nouryoku.com/index.html>

第142号 平成28年10月31日
発行 住友化学(株) アグロ事業部
お客様相談室 0570-058-669
編集者 太田有香
発行責任者 玉置昌宏

目次

農家さん訪問記 (126)【北海道・水稲、ミニトマト】	p.1
今月のご相談から【ベンレート水和剤/殺虫剤濃度 /液肥M号/ゼンターリ顆粒水和剤】	p.6
農薬登録情報	p.7
11月のおすすめ製品	p.8
オリーブづくり奮戦記	p.9
【お知らせ】訪問農家さん募集! 他	p.12
i-農力だより農園	p.13
美味しい時間へようこそ	p.14
編集後記	p.15



アメリカヤマボウシとキビタキ
富樫 信樹 画

農家さん訪問記(126)

ポジティブが歩いているような増田さん

今年の8月31日に北海道を襲った台風10号は、暴風だけではなく記録的な大雨によって、日高山脈から十勝地方にかけて甚大な被害をもたらしました。今回の取材地である石狩市では、心配されたほどの影響は受けず、予定通り増田さん宅をお訪ねすることができました。

当日は天気にも恵まれて、ご自宅の敷地内にある大きな池を取り囲む木立の中で、心地よくお話を伺いました。(訪問日:9月7日)



増田宗紘さん

就農は周辺農家の耕作依頼で

増田宗紘さん(38歳)は、お祖母さんとお両親の4人家族です。

トラックの運転手をしてきた増田さんが就農する決心をしたのは、27歳の時だったそうです。それまで、お両親が中心となって栽培していた水田(8ha)と畑(3ha:だいこん、にんじんなどの重量野菜)の栽培に加えて、近隣や高齢の農家さんから増田さん宅に耕作の依頼が増えてきたことがきっかけになったそうです。

増田さんが就農して最初に決断されたことは、重量野菜をやめて作業が楽なミニトマトに切り替えたことです。現在は、水田(22ha)、ミニトマト(100坪ハウス×18棟)で、効率的な農業経営を実践しています。

増田家の年間スケジュール

年間の農作業は以下のとおりです。

4月初めに、18棟あるミニトマトハウスのうち9棟で稲の育苗が始まります。5月の連休はホクレンから購入したミニトマト苗の定植です。連作障害を避けるために毎年とうもろこし（品種：ピュアホワイト）を2棟ずつ輪番で作ります。5月下旬に田植えが始まります。田植えが終わると稲を育苗していたミニトマトハウスが空きますので、そこにミニトマトを6月上旬に定植します。最初に植えたミニトマトと比べて、ちょうど1か月遅れです。ミニトマトの収穫は6月下旬からです。ひと月遅れのミニトマトは7月下旬からです。収穫が終了するのは霜が降りる頃です。そして、11月1日にはすべてのミニトマトの木を撤去します。



ずらっと並ぶミニトマトハウス

次に稲の病害虫防除は、育苗時に簡便で効果の高い箱処理剤を使います。本田防除は増田さんがラジコンヘリのオペレーターということもあり、ご自身が操縦して農薬散布します。9月から10月は大型コンバインで稲刈りです。その後、集荷、乾燥、籾摺り、出荷と一連の作業が続きます。

因みに、稲の育苗箱処理剤はスタウトパディート箱粒剤、水稻除草剤はメガゼータ1キロ粒剤を使用されています。両剤とも住友化学剤で、効果が高く持続力があり省力なので大変気に入っているとのことでした。

栽培方法にこだわる猛烈農家さん



一区画面積が広い水田

ここから、増田さんの猛烈な仕事ぶり、米作りのこだわりをご紹介します。

増田さんは、22haの水田の田起こしから代掻きまで一人でやり終えます。そのために、朝4時、日の出とともに大型トラクターで田起こしして、近くのダムから水を田に入れて、代掻きします。計画通りに終わらなければ、ライトをつけて深夜でも作業をします。田起こし（ロータリー）だけだと、1日で7ha耕すことが出来るそうです。こだわりは代掻きです。田面は出来るだけ均平にして、残渣はすべて土の中にいれて田面がすっきりしていないと気が済まないそうです。また、経験から適正量の施肥を行

うかどうかが米の収量に大きく影響するので、水田面積をGPSで測り直したそうです。

田植時は苗などの運搬に何人か雇用しますが、田植機は殆ど一人で運転します。さすがに田植えが終わるとほっとして、3日間ぐらいいは何にもしたくないと笑っておられました。

22haの水田の作業を短期間で終えるには、増田さんの驚異的な頑張りがあるのは勿論ですが、それだけではとうてい困難です。もうひとつの対応策としては自宅の周りに水田を集めて、一区

画の面積を可能な限り広くしていることです。それがあってはじめて短期間に終わることが可能になります。

インタビューの場所から見える水田はすべて増田家の水田です。約 **15ha** ほどあり、なんと一番大きな区画は **3.8ha** あります。隣り合わせの水田をできるだけ一つの区画に整備し、畔を広くして作業の効率を極力上げています。残りの水田も近くに集めているそうです。さらに、来年は **5ha** 増えるとのこと。経験的に、最大 **30ha** は一人で作業可能だそうです。増田さんは笑いながら「私みたいなのがもう一人いると **60ha** は栽培可能かなあ」と。ただし、これ以上、大規模化するとなれば法人化するか、**2~3** 軒の農家で共同経営になるだろうとのことでした。

聞いて試して良かった成果は仲間と共有



どこまでも続く増田家の水田

増田さんは、誰にでも気さくに声を掛けて、教を乞います。教えてもらったことは実践して、成果があれば惜しみなく周りの人に教えます。増田さんは「楽をしたいので分からないことはすぐ聞きます。いちいち自分で調べると時間がかかり、目的のことが十分分からないことが多いけど、経験者に聞くとすぐ答えが返ってきます。おまけにプラスαのことも教えてくれます。あまりしゃべらない人を見ると、なんだか損をしているように思えます。そして、特技はすぐに友達になれることです」。

増田さんが具体的に聞いていることとは、どんな配合肥料をいつ、何本（袋）やると、稲が倒れずに収穫量が多かったか、などです。そして、ご自身でも新しい肥料や農薬も色々試しています。業者が商材を試してほしいと持ってくると、一番見やすい場所（水田）で展示圃試験をします。収穫前になると、お祖母ちゃんに稲の穂数と籾数を数えてもらい、結果が良ければ、翌年にすべての水田で使用するそうです。そして、期待どおりの結果が出れば「皆で儲けましょう」と、JA いしかり青年部（30名弱）で結果を報告します。また、農作業が一息つく6月下旬、組合員恒例の焼肉パーティがあり、ここも情報交換の場として活用しています。増田家の伝統で、父親やおじいさんは困っている人を見かけると、ほっておけないタイプの人で、その二人を見て育ったため自然と同じことをするようになったそうです。

私（筆者）が驚いたのは、平均反収（10a）がなんと10俵（600kg）穫れるそうです。増田さんは言います。「稲が倒れると面白くないが、倒れないのも面白くない。そのぎりぎりのN量を計算して適期に施用している」とのことです。単純に計算すると反当10俵で22haだと、約2,200俵近く収穫されていることになります。

ミニトマト農家としても大変優秀

ミニトマト栽培について伺いました。

当初、増田家は水稻のほかに、だいこんやにんじんなどの重量野菜をつくっていましたが、収穫や運搬の作業が大変なので、ミニトマトに代えました。ミニトマトハウスは18棟（1棟：100

坪) ありますが、連作障害を避けるために毎年2棟ずつ輪番で、とうもろこし(スイートコーン)を栽培しています。とうもろこしの実は販売しますが、本当の目的は土壌改良ですので、収穫後の茎や葉を牛糞と混ぜて堆肥をつくります。出来た堆肥は全量ミニトマトハウスの土に鋤き込みます。

ミニトマト(品種: キャロル10)の苗はホクレンから購入しています。5月の連休に定植するミニトマトは、1本仕立てで、13~14段ぐらい収穫します。期間は6月末~10月末の霜が降りるまでです。6月中下旬に定植したミニトマトは2本仕立てにします。収穫期間は7月下旬~10月末までです。2本仕立てにすることで、栽培期間の短さをカバーし、1本仕立ての場合と同レベルの収量となります。ミニトマトの木は11月1日に撤去して、その年の作業は終わりです。

目標の収穫量は1棟当たり2tですが、ここ3~4年は達成しています。最近目標を上げて3棟で6.5tです。去年は6.47tで僅かに届きませんでした。出荷先はJAですが、毎日1t出荷するのが目標です。ミニトマトの収穫は手間が掛るために常時5名(男性1名、女性4名)のパートを採用しています。期間は春から10月末まで、8時~17時まで働いてもらっています。



大変美味しいミニトマト

生産者であり立派な経営者



新しく設置した乾燥施設

米の販売について伺いました。

平成26年産米の引き取り価格が下落した際、農協への出荷を中止しました。その理由はJAが米1俵に対して、徴収する手数料がばかにならなくなったからです。JAに出荷すると調整量600円、ホクレンへの手数料720円が自動的に差し引かれます。2,000俵以上出荷するため、経営に大きく響きます。個人で扱って、業者に出荷すると全くその手数料がかりません。JAから種籾を購入しているので、一部はJAに出荷しますが、あとは業者に出荷するようになりました。

JAとしても2,000俵ものコメが出荷されなくなれば、すぐに気が付きます。そこでJAには包み隠さず理由を話しました。業者に出した方が手数料分だけ高く売れることを。北海道の農協は組勘(組合員勘定)という制度があります。組合員への貸付と預金が統一されたもので、資金の流入(例えば販売代金)があれば、農協の貸付金と相殺されるという機能を持っています。この制度を利用していくらでもお金を借りることが出来ますが、当然借りたものは返済する義務があります。JAに出荷して、返済を免除してくれるのならよいのですが、そんなことはありません。いつかは返済するのであれば、わざわざJAに出荷して損をする必要はありません。そんな事情もあって、平成22年に近くの倉庫を借りて、1,000万円かけて乾燥施設をつくりました。そこで、扱って業者に出荷しています。JAとの話で分かるように、増田さんのモットーは「正論しか言わない」ことです。

冬もサイドビジネスとレジャーの充実生活

最後に増田さんのサイドビジネスと趣味についてです。

増田さんはラジコンヘリ（RCH）を自分で買って、農薬散布をしようと考えたことがあります。しかし、知り合いから採算が合わないとアドバイスをもらい、諦めました。今は RCH のオペレーターとして芦別市の会社に所属しています。RCH での防除はほとんど水稻（80%）ですが、今年 8 月 20 日～30 日にかけて北海道で集中豪雨があり、畑がぬかるんでブームスプレーヤーが入れなくなりました。そこで空中から散布が出来る RCH 防除の需要がありました。主な作物はビート、ばれいしょ、かぼちゃでした。RCH で水稻防除する期間は 7 月 20 日～8 月 15 日までの約 1 か月です。病害虫はいもち病、紋枯病、カメムシです。住友化学剤では、ブラシキラップ剤を散布しています。

本記に書くのが遅れましたが、増田さんの栽培品種は「ななつぼし」3ha、「ゆめぴりか」19ha です。「ななつぼし」は飯米用と、一部販売もしています。「ゆめぴりか」は、毎日食べていると、もち米を食べているようで飽きるそうです。増田さんにとってご飯は食べ物ではなく飲み物と同じであり、美味しくてめちゃくちゃたくさん食べるとのこと。そのため噛んでいる暇がないので、流し込んでいる感じになり、カレーだと 3 合ぐらい一度に食べるそうです。仕事が体力勝負なのと言われ、あらためて増田さんの体を眺めると、なるほどと納得しました。



おじいさんが錦鯉を飼っていた池と犬のジョン

ジンギスカンをして盛り上がります。道路の除雪作業をする人は、スノーモービルが趣味という人が多いそうです。また、12 月から 3 月までは飲み会が多くあり、青年部や部会の懇親会など、毎回メンバーが異なるので面白いそうです。その時も栽培方法について例の調子で情報交換しているとのこと。

私を感じた増田さんは、エンジョイしながら猛烈に仕事をされています。そして、遊びも一生懸命です。体力のない私（筆者）としては本当にうらやましいかぎりです。ぜひ、これからも地域の代表として北海道の農業を盛り上げてください。応援しています。（古津・納谷）



倉庫内にスノーモビル保管

冬は道路の除雪作業で建設会社と雇用契約を交わしています。会社が北海道から作業を請け負って実施しています。殆どが農家のおじさんたちなので、農作業がない雪の間のこの仕事は好都合です。雪が解ければ建設会社も除雪作業がなくなるので、どちらもウィンウィンの関係です。

趣味はスノーモービルだそうで、2 台お持ちです。仲間を誘って、近くの山に出かけます。例えば余市岳などの斜面を駆け抜けます。その際、焼肉セットとガスコンロを背負って山に登り、風の当たらないところに穴を掘って、仲間と



「知りたい！聞きたい！農薬・肥料」のお客さま相談室より

今月のご相談から



1. 鹿児島県 農家の方

Q：ベンレート水和剤で、きゅうりのある病気に登録がある場合、異なる作物の同名の病気に登録がなくても、同じ効果があると考えてもいいですか？

A：一般的には効果があると考えられますが、あくまで推定です。農薬の適用病害虫名は、それぞれ都道府県の試験研究機関で評価試験（通常2年、6カ所）を実施して、実用性があると判断された結果に基づいて登録承認されラベルに記載されます。特に病害の場合、植物体を通しての効果ですので、作物が異なれば効果が異なることもあり得ますし、同じ病名でも作物が異なれば病原菌が異なる場合もあります。ラベル表示内容については、それなりの裏付けがあることをご理解ください。



2. 神奈川県 農家の方

Q：本年はシンクイムシの発生が多く、ロディー水和剤をはじめネオニコチノイド系薬剤とローテーションを組み防除しました。殆どの薬剤で高濃度と低濃度の登録がありますが、記載された濃度間差による効果の違いはどれほどの差があると考えられますか？

A：薬剤の作用性により違いがありますので一概に言えませんが、高濃度の場合は低濃度に比べ残効性が多少長くなる シンクイムシの場合、ステージ（令）が進んでもパンチ力が増し効果が高くなる 等が挙げられます。なお、薬剤散布の基本として、病害虫の発生予察を参考にし、防除適期にかけムラの無いように散布してください。

3. 熊本県 農家の方

Q：熊本の阿蘇でいちごを栽培しています。施肥は元肥なしで、1000～1500倍希釈液肥を追肥として朝と夕方に毎日灌水しています。液肥M号を見ると加里が少し少ないが、いちごでの使用は有効でしょうか？今使用している液肥は目詰まりするのでサラサラの液肥を求めています。

A：一般的に加里過剰の施設が多く、また液肥M号のみで施肥することを考えていないので、液肥M号の加里成分は低目に設計しました。現在使用されている液肥と交互に液肥M号を使用していただくことをお奨めします。特に、液肥M号は低温期に使用することで根の活性を高め、安定した収量に結びつきます。

4. 千葉県 農家の方

Q：ゼンターリ顆粒水和剤はいも類で使用可能との事ですが、さといも及び、やまのいもも含まれますね。豆類（種実）の中にはらっかせいも含まれますか？半乾燥して生で出荷する場合の登録上の区分けがありますか？

A：さといもややまのいももいも類に含まれます。らっかせいは豆類（種実）に含まれ、半乾燥の生の豆で出荷する場合でも登録内容の区分けはありません。いずれの作物もゼンターリ顆粒水和剤は使用可能です。

（酒井）

[目次へ戻る](#)

農薬登録情報

9月16日、21日の主な適用拡大の内容です。

詳細はここをクリックしてください。

<http://www.i-nouryoku.com/prod/tekiyou/2016.html>**殺菌剤**

薬剤と変更日時	変更項目	適用作物	変更前	変更後
ブライア水和剤 (2016/9/16)	作物追加	-	豆類(種実、ただし、だいず、らっかせいを除く)、だいず	豆類(種実、ただし、だいず、らっかせいを除く)、だいず、 小麦、茶
S Tダコニール 1000 (2016/9/21)			りんご他70作物	左記に つつじ類 を追加
S Tダコレート 水和剤 (2016/9/21)	使用回数	アスパラガス	TPNを含む農薬の総使用回数3回以内	TPNを含む農薬の総使用回数 4回 以内
	希釈倍数追加	もも	果実赤点病 (1500倍)	果実赤点病 (1000~1500倍)
ダコニールエース (2016/9/21)	病害追加	かぼちゃ	うどんこ病 黒斑病	うどんこ病 黒斑病 つる枯病
	使用回数	アスパラガス	TPNを含む農薬の総使用回数3回以内	TPNを含む農薬の総使用回数 4回 以内
	使用方法削除	アスパラガス	散布及び無人ヘリコプター	散布のみ 無人ヘリコプターを削除

(山脇)

[目次へ戻る](#)

11月のおすすめ製品



画像をクリックしていただくと、i-農力サイトの詳細ページが表示されます。

水稻農薬

箱王子粒剤



播種前～移植当日まで使用でき
いもち病・初期害虫・チョウ目害虫
などを徹底防除！

箱いり娘粒剤



水稻の主要害虫・いもち病・
紋枯病をまとめて防除可能！

スタウトパディート 箱粒剤

病害虫の侵入を許さぬ強固な守り



播種前～移植当日まで使用でき
いもち病・初期害虫・フタビコヤガ
を防除！

ワンリードSP 箱粒剤



播種前～移植時まで使用可能！
めざせ、豊穡の大地！

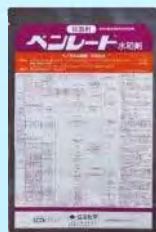
園芸農薬

ロビンフッド



食入孔にノズルを差し込み強力
殺虫！ヒメボクトウ・カミキリムシ
類を省力防除。待望の新商品！

ペンレート水和剤



水稻・果樹・野菜の病害防除！

スクレアフロアブル



なし・もも・豆・葉菜の殺菌剤！
ついに新登場！！

ダントツ



幅広い殺虫効果＆優れた
浸透移行性！残効も長い♪

除草剤

ゼータタイガー



3成分配合でクログワイに底
力！3製剤勢揃いで新登場！

ゼータハンマー



2成分で高葉齢のノビエにも
高い効果！田植同時処理可

ゼータワン メガゼータ



難防除雑草に優れた効果！
3剤型勢揃い！

ゴエモン



ノビエに卓効の新規成分！
ついにジャンボ登場！

肥料

住友 液肥M号



メチオニン・グルタミン酸
添加アミノ酸入り液肥

スミカエース



野菜・果樹・花き・芝生・茶用
硝酸化成抑制材 DCS 含有

スーパー SRコート



被覆肥料の種類が豊富
溶出 20日～180日まで！

楽一



倒伏軽減剤入り
水稻用基肥一発肥料

[目次へ戻る](#)

オリーブづくり奮戦記⑤

(香川県多度津町で)

前回の内容は、オリーブ苗木を植える前に病害虫防除および新漬けの講習会に出席してオリーブ栽培に備えた話でした。また、ジュニアソムリエコースを受講してテイスティングの大切さを知りました。

オリーブ園の作業を振り返って

昨年末に65歳を迎え、今年から嘱託として週3日の勤務になりました。

それにより毎月1週間ほど帰省出来るようになり、気持ちに余裕が生まれました。今年2月に帰省したときは、妻と一緒に枝の剪定を行いました。また、オリーブ仲間に自走式草刈機(ハンマーモア)(写真右)を借りて草を刈りました。肩掛け式の草刈機と比べ、早くて楽なのですが、急傾斜地では草刈機が転がり落ちそうで、操縦するのにかなりの力と神経を使います。しかし、刈あとは非常にきれいです。(写真左下)



さて、昨年と今年の作業を振り返りますと、1月は支柱立て、2月に剪定と施肥、3~9月は毎月草刈と農薬散布です。また、昨年7月は台風が直撃し、



倒木が発生しました。今年は干ばつで実がしぼむなどの被害を受けています。このように、農業は天候に左右されることを改めて感じています。これからの作業は収穫(10月上旬~11月上旬)が始まります。昨年は母と妹の応援で一度に50kgほど11月上旬に収穫しました。今年は新漬け用に出荷を考えていますので、大きく膨らんだ実から毎日もぎ取ることになります。実の成り具合で今年の収穫予想量は、昨年の3倍と見込んでいます。

オリーブの歴史・生産量・効能について

オリーブの歴史や生産量、効能について少し説明します。

原産地はシリア(現トルコ)で、紀元前3000年ごろ地中海沿岸の国々で栽培が始まりました。世界の果実総生産量は約3,000万t弱。第一位、スペイン(1,173万t)、第2位、イタリア(596万t)、第3位、ギリシャ(408万t)。日本の生産量は160t、輸入量は5.5万tです。米国食品医薬品局(FDA)がオリーブオイルに限定的健康強調表示を許可したことで、健康食品としてアメリカなどで消費量が飛躍的に伸びました。オリーブの品種は約3,000種あり、品種や収穫時期、産地の気候風土でオリーブオイルの風味も大きく異なります。青い未熟な果実で絞るとスパイシーで少し苦みがあり、完熟な果実はマイル



オリーブオイルと新漬け

ドでフルーティーです。また、山のオイルはスパイシーで力強く、海辺のオイルはデリケートな味になります。我が「蒼のダイヤ」(写真：前頁) <http://www.aonodia.com/>は海に面した山の斜面のためか、デリケートでちょっぴりスパイシー(辛い)な味です。

オリーブの果実は収穫してから搾油までの時間が短ければ短い(24時間以内)ほど、酸化が少ないため美味しく仕上がります。それがエキストラ(EX)バージンオリーブオイルです。オリーブオイルに多く含まれる不飽和脂肪酸のオレイン酸は、悪玉コレステロールの酸化を抑制し、善玉コレステロールの働きを維持増加させる働きがあると言われています。それにより動脈硬化を防ぎ、心筋梗塞の予防に効果があるそうです。また、女性の方は肌にうれしい6大成分がオリーブオイルには含まれています。①ビタミンA(カロチン)：肌のハリと弾力、②ビタミンE：新陳代謝の活性、③オレイン酸：保湿成分、④スクアレン：紫外線や乾燥バリア、⑤リノール酸：水分保持、⑥ポリフェノール：老化と戦う成分などです。*

*:日本オリーブ協会 HP より抜粋

オリーブオイルを上手に使うって健康増進



左から渡邊さん、空井さん、細川さん

今年8月中旬に、私は空井農園(小豆島)の空井和夫さんに、(株)蒼のダイヤの役員と一緒に会いました。

空井農園 <http://sorai-olive-farm.com/>のEXバージンオリーブオイルは日本やイタリア、アメリカなどのコンテストに独自に出品して高い評価(いずれも金賞)を受けています。その空井さんから大変興味深い話を伺いました。空井さん(70歳)の肌は非常にきれいです。その秘訣は毎日お風呂上りにオリーブオイルを顔や髪などに直接塗っているそうで

す。効能は皮膚が生き活きとして、シミも分からなくなるそうです。空井さんの顔をジッと見させていただきましたが、確かにシミの痕跡はありますが、殆どわかりません。それを聞いて、早速私も毎日塗っていますが、果たしてどうなるのでしょうか。

オリーブ栽培に取り組んでからの私は、野菜サラダ、豆腐、納豆などにオリーブオイルをかけるようになりました。(熱々のご飯に掛けてもおいしいですね~!)特に、レモン果汁とオリーブオイルとの相性は抜群です。

ところでアホエンという成分をご存知ですか。NHK番組の「ためしてガッテン」でも放映されましたが、アホエンはにんにくの臭いの元となるアリシンが分解してできる成分です。脳年齢を若返らせ頭を良くするばかりでなく、美肌効果、免疫力アップ、がんの予防、心臓病、脳卒中の予防といった素晴らしい働きがあるそうです。そのアホエンを取り出すにはオリーブオイルを温めて(100℃以下)その中に細かく刻んだにんにくを入れれば出来上がりです。毎日スプーン一杯ほど摂取(取り過ぎはだめ)すればOKです。早速、こちらを試しています。認知症になりかけの私ですが、1年後にどんな効果が現れるか楽しみです。



自家製アホエンオイル

夢はオリーブと共に町おこし

健康に良いオリーブですが、(農) たどつオリーブ生産組合(50名ほど)の組合員は、殆どの方が60歳以上です。しばらく皆さんは頑張れますが、10年、20年先となると心細いものがあります。そのためには、若い人にオリーブづくりの魅力をアピールして、後継者として参加してもらわなければなりません。幸い、今年も「蒼のダイヤ」はオリーブジャパンのコンテストで受賞し、皆さんの関心は盛り上がっています。

(農) たどつオリーブ生産組合の組合員が収穫したオリーブを加工・販売する「(株)蒼のダイヤ」が、6次産業化のモデル事業に選ばれ、その資金をもとに加工場(搾り機設置)が今年9月末に完成して、10月より稼働します。今秋9月、私は組合総会で役員に選出されたことで、より積極的に協力したいと考えています。また、個人的には、もう少し栽培面積を増やし、ルッカなど異なった品種を植えるつもりです。東京ではオリーブオイルを使った料理を仲間と楽しく食べ歩きして、今後メニューづくりの参考にしています。



完成したばかりの加工場



オリーブ園からの瀬戸内海

最後に、夢はオリーブの加工場に併設したレストランや売店、宿泊施設などを設けたいですね。都会の人が訪れて収穫を楽しみ、瀬戸内の海を眺めながらレストランで地元の食材(オリーブ牛、オリーブハマチなど)を使った料理をゆっくりと食べて、宿泊施設でくつろいでいただければ最高です。瀬戸内国際芸術祭も組み入れた観光プランもいいですね。色々なオリーブの商品も取り揃えたいです。例えば、地元かんきつとミックスしたオリーブオイル、苗木、オリーブの漬物、オリーブ茶、化粧品、石鹸などを製造販売したいです。そうすることで雇用が生まれ、少しでも地元が盛り上がるといいねと、役員のみなさんと酒を飲んで夢を語っています。(完)

古津 昇

[目次へ戻る](#)



お知らせ

訪問農家さん募集！

「農家さん訪問記」の取材にご協力いただける農家さんを募集しています！

必要事項を明記のうえ、お客様相談室までご連絡ください。

農家さん(i-農力会員。他薦の場合は、推薦者が会員)であれば結構です。

たくさんのご応募、お待ちしております！！



詳細はこちら



読者プレゼント実施中！

「i-農力だより」をご愛読いただいている会員様を対象に、「読者プレゼント」を実施しています！

毎月「農家さん訪問記」で訪れた地方の特産品(お菓子や加工品)を抽選で1名の方にプレゼントします。

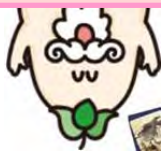
たくさんのご応募お待ちしております！

★応募方法★

今月号の「i-農力だより」で気になった記事を1つお選びいただき、ご意見・ご感想をお寄せください。

応募締切：**11月15日(火)**

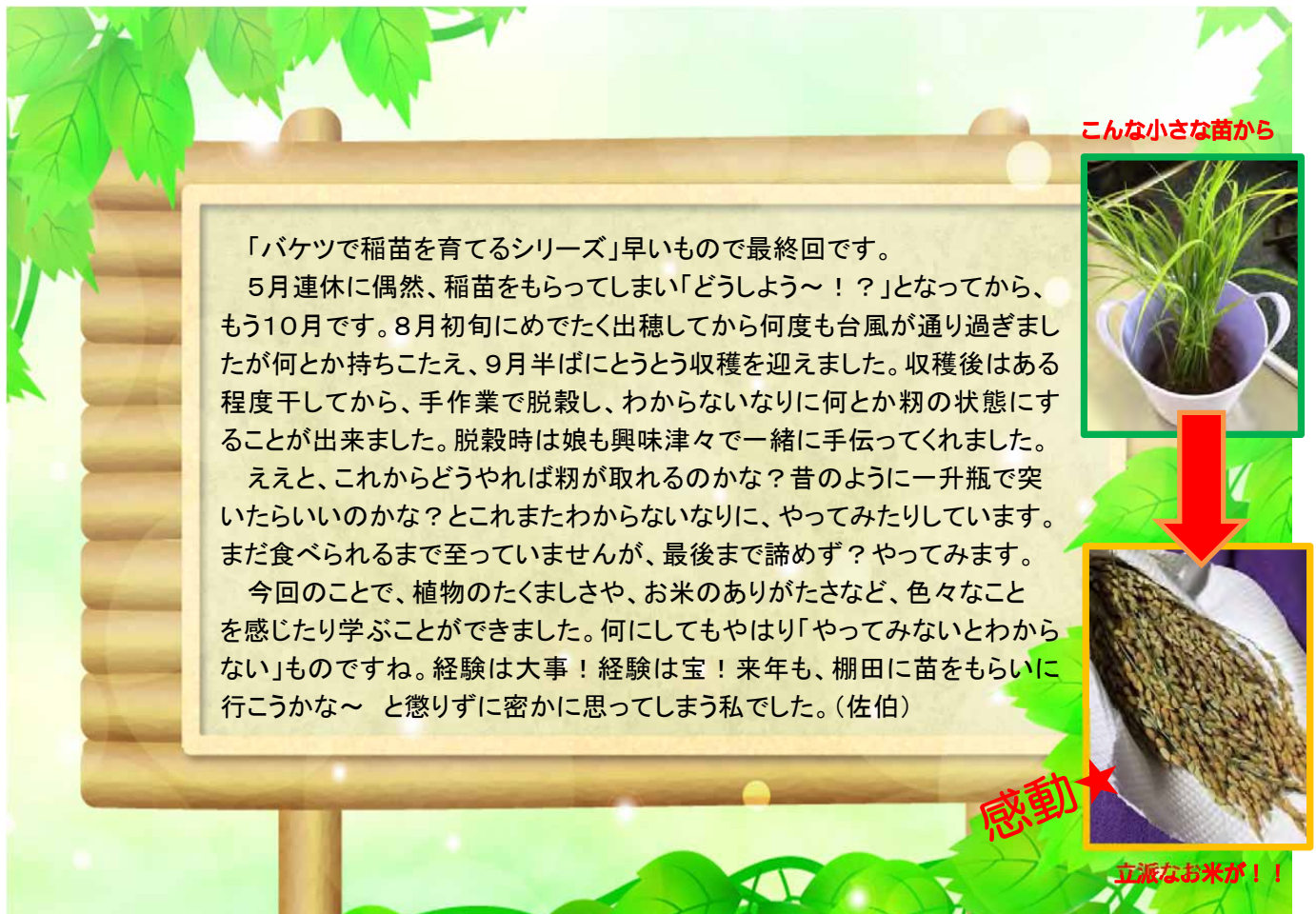
詳細はこちら



[目次へ戻る](#)

i-農力だより農園

「i-農力だより農園」では、今月も社員が奮闘しながら作物を育てています。農家のみなさんの気持ちがわかるようになるのはいつの日か？みなさんからのコメントもどしどしお寄せください！



「バケツで稲苗を育てるシリーズ」早いもので最終回です。
5月連休に偶然、稲苗をもらってしまい「どうしよう～！？」となってから、もう10月です。8月初旬にめでたく出穂してから何度も台風が通り過ぎましたが何とか持ちこたえ、9月半ばにとうとう収穫を迎えました。収穫後はある程度干してから、手作業で脱穀し、わからないなりに何とか粃の状態にすることが出来ました。脱穀時は娘も興味津々で一緒に手伝ってくれました。ええと、これからどうやれば粃が取れるのかな？昔のように一升瓶で突いたらいいのかな？とこれまたわからないなりに、やってみたりしています。まだ食べられるまで至っていませんが、最後まで諦めず？やってみます。今回のことで、植物のたくましさや、お米のありがたさなど、色々なことを感じたり学ぶことができました。何にしてもやはり「やってみないとわからない」ものですね。経験は大事！経験は宝！来年も、棚田に苗をもらいに行こうかな～ と懲りずに密かに思ってしまう私でした。(佐伯)

こんな小さな苗から

感動★

立派なお米が！！



お～～っ!! こ、米になってる!! 素晴らしい!!
苦勞した分、お米の味も格別でしょうね。
米は八十八の手間をかけて作ると言います。その一端をこのバケツで勉強できてとてもよかったですね。来年は当社品種でバケツ栽培どうでしょう。さて我が菜園ですが、9月下旬から菊芋が花盛りです。写真ではわかり難いですが、背の高さは3m以上あります。花が終わり地上部が枯れてきたら芋掘りです。菊芋はマイナーな作物ですが、糖尿病や高血圧等の生活習慣病の改善に効果があるそう。中高年向きの作物ですね。

氏家農場長コメント

[目次へ戻る](#)

美味しい時間へようこそ♪

相談室から佐伯がお送りします
 食べることは生きること。
 美味しいとはなんと幸せなことか。
 日々の美味しい話を思いつくまます。



お米の美味しい季節がやってきた

皆さん、私が自宅で稲の苗を育てていたことは知っていますね？（本紙i-農力だより農園ページ参照）その苗が立派に成長し、わずかではあるものの無事収穫することができました（めでたい★）。折しも季節は新米の時期。美味しい新米を求めて、また、田んぼの様子を見せたくて先日の連休のことですが、娘を連れて家族で房総半島まで出かけてきました。

育てた苗をそもそも入手したのは5月連休のことです。千葉在住の私たち家族は、気軽さも手伝って、ちょくちょく房総半島へ出かけます。数ある見どころの中でもお気に入りがある大山千枚田という鴨川市にある棚田です。5月連休に出かけた際、娘が棚田にいた猫を追いかけていたところ、棚田を管理されている方と出会いました。その方が娘を見るなり「お米の苗を植えてみるかい？」と話しかけてくださり、そのまま一掴みの苗を頂いてしまったという次第。（その後のことは、あいのうりよくだより農園でもお話したとおりです。）

その棚田ですが、今回訪れた時は完全に稲刈りが終わっていました（汗）。それでも広がりのある棚田の景色に娘は大喜び。数ある案山子の中では「くまモン」の案山子が気に入っていました。お昼時でしたので、近くにある棚田カフェに入って、地元「長狭米」の新米を使ったおにぎり定食をいただきました。つやつつやの新米に海苔の香りをまとったおにぎり



大山千枚田
 しかし、あいにくのお天気・・・



素敵なたずまいの
 棚田カフェ



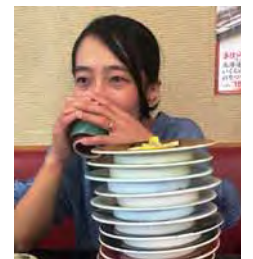
秋のごちそう。新米おにぎり～

りです。これはご馳走ですね。しかも目の前で握ってくれるんですよ～♪具はいろいろある中から選べることになっています。私はしその実と、ゆず味噌にしました。こういう具はご飯を引き立てるんですよ。ということで大変美味しくいただきました。（おにぎりの他にも美味しそうなお米メニューがいっぱい！また食べに来よう～）



新米新米嬉しいな～

帰り道は、やはり定番の「道の駅」めぐりです（これがまた楽しい～）無事、千葉の新米をゲットしてきましたよ。まだ家にお米がすこし残っているのでこちらを頂いてから開けてみようと思います。写真にある2種類のお米を買いましたが、多古米の方は玄米なので、実家の近くにある精米所で精米してから皆で味わおう♪と夢？は広がります（笑）。皆さんもお米の美味しい季節、新米を存分に味わってくださいね。でもあんまり美味しいからって、食べ過ぎには注意ですよ！（笑）（佐伯）



（おまけ）
 食べ過ぎ注意！
 これはイメージ
 です（笑）

[目次へ戻る](#)

～ 編集後記 ～



私の趣味はそば打ちですが、そば好きにとって残念なニュースを取材で前泊したホテルで知りました。

それは北海道新得町で毎年恒例の「しんとく新そば祭り」が、北海道を襲った台風（7号～10号）で地域に甚大な被害が生じ中止となったのです。収穫目前のそばは風雨に弱く、倒れると収穫量が激減します。北海道は国内そば生産の7割以上を占める日本有数の産地です。そのそばに被害があれば当然価格が吊り上がります。いつも北海道のそば粉を取寄せている私としては、大いに気になるところです。

今回、石狩市の農家さんインタビューを終えて、ふれあい倉庫当別という産直市場で昼食をとりました。そこに蕎麦屋さんがあり、取材した3名で肉そばを注文しました。しばらくして、テーブルに置かれたそばはご覧の通りのそば（写真）でした。どんぶりの縁に大きな海苔を貼り付けたユーモラスなそばです。私は思わずスマホのカメラでシャッターを押しました。（多分、汁に入れると海苔がふやけるので、それを避けるためのアイディアだと思います？）

取材の当日は北海道と思えないぐらい蒸し暑く、汗を拭き拭きそばを手繰り寄せました。来年は「しんとく新そば祭り」が無事開催されるとともに被災地の早い復興を祈念して、美味しく肉そばをいただきました。

（古津）



大阪に住んでいる私（納谷）にとって、札幌市から石狩市の増田さん宅へお訪ねする道すがらの風景は、北海道の“広さ”と“大らかさ”を体感させてくれました。水田や畑の一筆当たりの面積、圃場間のゆとり、畔の広さ……やはり機械化を前提とした北海道ならではの農業の一端を垣間見る思いがしました。

本文にあるように増田さんの水田及びミニトマトの作付け規模拡大と効率性の追求には唸らせられましたし、仲間同士の連帯感を強めながら、“楽しく”“前向き”に農業に取り組んでいる姿には羨ましさを感じます。

近い将来、また増田さんの活躍ぶりを伺える機会があればと楽しみにしておきます。

（納谷）

次月号の - 農力だよりは
11月30日(水)の発行予定です。
どうぞお楽しみに！！



[目次へ戻る](#)